

2017年度事業報告・決算報告

はじめに

2017年度に事業計画で情勢の特徴を以下のように位置付けました。

安倍首相は、国民主権、平和的生存権、基本的人権を普遍的権利として宣言した世界に誇る日本国憲法を安倍政権は憲法審査会をスタートさせ自衛隊を明記しようとしています。沖縄では、辺野古新基地の工事を進め民意が無視され続けている状態です。また、軍事費を5年連続で増やし、社会保障は自然増さえ賄おうとせず概算要求から1400億円も削減しました。財政健全化目標を達成するために、16～18年度の社会保障費の伸びを1兆5000億円とするため、自然増が見込まれる6400億円を5000億円に圧縮するというものです。一方では、労働者は5年連続で実質賃金はマイナスとなり、年収300万円未満の層が、55.1%となり全世代で増加し、生活保護世帯は160万世帯を超え、子どもの貧困は、6人に1人となり格差と貧困は拡大しています。

社会福祉法の一部が改訂され、非営利性の徹底と公益性を向上することで、他の主体との差別化を図ることと「自助・互助・共助・公助」に基づく社会福祉事業の市場化により福祉を商品化し、自費で購入できない人に対しては、ボランティアや社会福祉法人の地域公益取り組みによって「我が事・丸ごと」として転嫁してきています。

以上の情勢の中で、みんなの命の署名、3000万署名にも取り組んできました。

当法人運営にとって一層の厳しさが予想される介護制度・保育制度・障害福祉サービス制度の動きに対し介護ウエーブで宣伝と署名活動を行う等運動も含めて対応してきました。更に16年度末にきょうと福祉人材育成認証取得し、17年度京都モデルワークライフバランス認証を得ることができました。認証を活用しながら人材確保、第三者評価の受審、幹部職員・職員の育成を行い、サービスの質の向上、制度の狭間にあるニーズに焦点を当てそれに応える福祉サービスの供給、職員処遇の向上、組織統治の確立などの具体化を図ってきました。

法人理念を基本とし、公的責任を追究しながら、平和憲法を守り、社会福祉法人としての役割を果たすべく、介護・保育・障がいの分野で、厳しい情勢と闘いながら「利用者・子どもの立場に立った」事業の維持・発展に努めてきました。しかし、老健西の京において、心理的虐待が発生し（京都市認定）、そのことを受けて働き方や組織の在り方、質の向上など含めて見直しを行い継続しているところです。

2017年度は下記を重点事項に据えて取り組んできました。

- ① 介護事業の安定的な運営
- ② 新体制での保育園運営
- ③ 利用者の立場に立つ質の高いサービスの提供 各事業所共通
- ④ 制度にない福祉サービスの展開(社会福祉充実計画)
- ⑤ 各事業所の予算達成
- ⑥ 幹部職員の配置と育成、職員の雇用と育成と労働条件の整備
- ⑦ 社会保障制度を守り発展させる活動
- ⑧ 法人としての役割、組織の在り方を検討し具体化する

以上の取り組みの詳細は、各事業所の報告を参照いただき「2017年度事業・決算」の概要を以下の通り報告します。

1. 2017年度の決算概要

事業活動のサービス活動収益は15億308万円となり、前年対比で見れば5,327万円（前年比103.6%）の増収となりました。事業毎では、介護事業910万円（前年比101.2%）の増収、保育事業3,807万円（前年比106.2%）の増収、児童支援事業611万円（前年比105.5%）の増収、全ての事業で増収となりました。

当期活動増減差額は、保育事業・児童支援事業で黒字、介護事業で赤字を計上しましたが、法人合計で8,793万円の黒字となりました。（予算比+5,509万円、予算比341.1%）

資金収支差額合計は、3,599万円の黒字となりました。今期の100万円以上の投資は、西の京空調工事1,976万円、西の京防水工事129万円を行なっています。固定資産取得支出の合計は2,675万円となり、事業活動資金収支差額11,702万円に対応しました。総資産は、25億4,483万円で前年度より▲140万円の減少となっています。流動資産は、事業活動収支の結果等で2,430万円の増加となっています。固定資産は、建物、積立金等の増加、減価償却の差引で▲2,571万円の減少となっています。

負債は、6億4,473万円で前期より6,984万円の減少となっています。今期新たな借入金は、ありませんでした。固定負債の長期借入金返済は予定通り4,328万円の返済をおこなっています。

純資産は、当期活動収支差額8,793万円の黒字、国庫補助金の償却減、積立金等の結果、6,843万円の増加で、19億10万円となりました。

<貸借対照表>

単位：万円

	2017年度	前期差額	2016年度
総資産	254,483	▲140	254,624
流動資産	70,390	2,430	67,960
固定資産等	184,093	▲2,571	186,664
負債	64,473	▲6,984	71,458
流動負債	19,266	▲902	20,168
固定負債	45,206	▲6,082	51,289
純資産	190,010	6,843	183,166
次期繰越活動差額	84,646	3,793	80,853
内当期活動差額	8,793	5,508	3,284

<事業活動計算書 事業別 前年対比>

単位：万円

	合計	本部	介護事業計	保育事業計	児童支援事業計
2017年度 収益計	150,308	1	73,934	64,850	11,522
2016年度 収益計	144,980	0	73,024	61,043	10,911
収益計 前年差額	5,327	1	910	3,807	611
前年比率	103.6%		101.2%	106.2%	105.5%
2017年度 費用計	143,417	3,376	73,359	57,597	9,083
2016年度 費用計	142,462	3,497	73,458	56,759	8,747
費用計 前年差額	954	▲121	▲99	838	336
前年比率	100.6%	96.5%	99.8%	101.4%	103.8%
2017年度 当期増減差額	8,793	586	▲345	6,748	1,803
2016年度 当期増減差額	3,284	338	▲1,946	3,370	1,521
当期増減差額 前年差額	5,508	248	1,601	3,378	282
前年比率	267.7%	173.3%		200.2%	118.6%

2. 各分野の事業報告と決算状況

(1) 介護事業

老健西の京では、ベット利用率は95%目標で年間平均94.4%、在宅復帰率は、年間平均34.8%、2月は30%に届かず加算を取り下げる結果となりました。短期入所では1日平均利用者は、4.8件と過去3年の推移からしても低い状況となりました。新規利用者は31件ありましたがリピーターにはつながりにくい状況でした。医療依存度が上昇傾向にあり、短期入所の選択肢が増えきていることもある中で老健としての強みをどう生かしていくかが課題です。通所リハビリテーションについては、1日平均28.5人(15年度30.4人)と減少傾向にあり介護度も2.3から2.5と重くなってきている状況にあります。介護報酬改定を受け在宅強化型老健を展望することを18年の方針に掲げました。当期活動増減差額は▲353万円(前年▲1,833万円)となりました。

18年12月の心理的虐待を受け、風通しの良い組織づくり、業務の見直し等を行い、今後も理念学習、多職種の連携、他施設との連携等々強めていきます。

特養都和のはなでは、死亡退所6名で空きベットは延べ日数30日、8名の繰り返し入院で空きベットは延べ日数651日となり稼働率90.7%となりました。予防ケアをさらに進めていき、入院を減らす努力をしていきたいと思えます。職員体制は、年度当初では出入りが激しかったが、後半安定してきました。収入減により当期活動増減差額は▲173万円(前年8万円)となりました。

グループホーム都和のはなの稼働率は、95.1%(前年の稼働率99.3%)で、入院者は4名延べ9回157日となり1名の方の見取りを行いました。入所の方半数が重度の方となり介護量が増大する中で勤務時間や体制などで考慮してきました。当期活動増減差額は▲37万円(前年▲183万円)となりました。

ケアステーション虹の家は、居宅介護支援は目標63件に対し月平均59.6件(前年比94.6%)、訪問(予防)介護は目標45件に対し45.3件(前年比100.6%)と目標達成し、訪問延べ回数は前年比+914件(17%増)としました。収支状況では、当期活動増減差額219万円と予算達成しました。

単位：万円

	科目	17年度実績	構成比	16年度実績	前年比
特養都和のはな	収益合計	9,543	100.00%	9,789	97.49%
	人件費	6,851	71.79%	6,731	101.78%
	事業費	1,197	12.54%	1,227	97.56%
	事務費	623	6.53%	665	93.68%
	費用合計	9,482	99.36%	9,425	100.60%
	サービス活動増減差額	60	0.63%	363	16.53%
	経常増減差額	▲53		254	
	当期活動増減差額	▲173		8	
老健西の京	収益合計	56,831	100.00%	55,920	101.63%
	人件費	39,069	68.75%	38,978	100.23%
	事業費	7,292	12.83%	7,206	101.19%
	事務費	7,207	12.68%	7,441	96.86%
	費用合計	56,623	99.63%	56,718	99.83%
	サービス活動増減差額	207	0.36%	▲798	
	経常増減差額	546	0.96%	▲777	

	当期活動増減差額	▲ 353		▲ 1,833	
GH都和のはな	収益合計	4,546	100.00%	4,634	98.12%
	人件費	3,505	77.08%	3,579	97.93%
	事業費	388	8.53%	538	72.12%
	事務費	331	7.28%	340	97.35%
	費用合計	4,480	98.53%	4,710	95.12%
	サービス活動増減差額	67	1.47%	▲ 75	
	経常増減差額	22	0.48%	▲ 121	
	当期活動増減差額	▲ 37		▲ 183	
虹の家	収益合計	3,012	100.00%	2,681	112.35%
	人件費	2,440	81.01%	2,297	106.23%
	事業費	103	3.42%	82	125.61%
	事務費	219	7.27%	212	103.30%
	費用合計	2,773	92.07%	2,603	106.53%
	サービス活動増減差額	238	7.90%	77	309.09%
	経常増減差額	238	7.90%	77	309.09%
	当期活動増減差額	219	7.27%	62	353.23%
合計	収益合計	73,934	100.00%	73,024	101.25%
	人件費	51,866	70.15%	51,585	100.54%
	事業費	8,981	12.15%	9,053	99.20%
	事務費	8,381	11.34%	8,658	96.80%
	費用合計	73,359	99.22%	73,456	99.87%
	サービス活動増減差額	574	0.78%	▲ 433	
	経常増減差額	754	1.02%	▲ 567	
	当期活動増減差額	▲ 345		▲ 1,946	

決算の特徴は、サービス活動収益で、虹の家・西の京で増収、都和のはな特養・GHで減収となり、介護事業合計では、前年比+910万円（101.2%）の増収となりました。

当期活動増減差額は、特養都和のはなは▲173万円の赤字（収益不足）、老健西の京は▲353万円の赤字（収益不足）、GH都和のはなは▲37万円の赤字（収益不足）、虹の家は219万円の黒字（収益増）、合計で▲345万円の赤字（前年比+1,601万円の改善…）となりました。

（2）保育分野

保育分野にかかわる大きな特徴は、1点目は、公立移管園青い空保育園（小規模 60 定員）3 年目で園長交代があり第三者評価を受診したこと、2点目は、法人内委員会の設置、3点目は、処遇改善Ⅱ導入の対応、4点目は、人材確保の難しさでした。

青い空保育園は、5年間公立保育所の保育を引き継ぐ形でスタートしての3年目に園長・主任が交代しました。小規模保育園であることで、正規職員が各クラスに1名の配置となり若い職員でもクラス責任者としての運営をしなければいけないこともあり、人材育成も含め、2人組で話し合う、3カ月に1回の園長面談、第三者評価に向けて中堅会議をするなど丁寧な話し合いと実践の援助を行ってきました。保護者会役員との懇談を定期的に行い、年3回の三

者協議会も今年度で基本終了し必要時に行うこととなりました。

2点目は、これまで、4か園で給食は年3回行って交流してきていましたが、今年度から幹部育成も含め副主任以上で構成し、クレーム・安全・教育育成・社保の新たに委員会を立ち上げました。今回のデータを受け各園で今後の保育にいたしていきたいと思います。3点目は、処遇改善Ⅱの対応で5,000円から40,000円の範囲内で毎月支給し、研修も伴うことなので計画を立てるなどの今後の検討が必要です。4点目の人材確保では、若い職員が増えてきている中で産休育休取得者の対応に人材確保に苦慮してきました。働き方が変わってきて、半日労働、週3日～5日と労働者は増えるがパッチワークのように穴埋めの状態が続いています。

各園の入園状況延べ人数は、白い鳩保育園 1,537名（1か月平均128.3名、前年度比98.5%）洛西保育園 1,779名（1か月平均148.3名、前年度比101.6%）あらぐさ保育園 684名（1か月平均57名、前年度比100%）青い空保育園 779名（1か月平均64.9名、前年度比101.4%）となりました。

白い鳩保育園では、産休育休が3名入り、非常勤を増やして対応してきました。経験豊かな職員の定年退職により保育内容については、少人数で話し合う場の設定をする等丁寧な対応をしてきました。

洛西保育園では、途中入所児童によるクラス編成と産休による担任変更があった。若い職員が多い中で幼児保育や障害児保育に対する不安もある中で保育の援助と話し合いを丁寧にしてきました。

あらぐさ保育園では、0歳児の土曜保育の保育が8～9割で体制を取るのが大変であった。配慮の必要な子ども（歯が生えていない、特定の物しか食べられない）に対して柔らかくし、刻みなどで対応してきました。

青い空保育園は、年々受け入れ人数は増やしてきているが、広さとの関係で0歳児は7名が限度となっているため職員数が増えない状況にあります。障がい児認定された子どもが9名+アレルギー児3名と18%に当たる子ども達が認められました。職種を超え、クラスを超えた連携で保育を行い、子育て支援、地域連携で、様々な取り組みを行ってきました。また、親子半日保育体験は好評で入園につながっています。

単位：万円

保育園	科目	17年度実績	構成比	16年度実績	前年比
白い鳩保育園	サービス活動収益	18,753	100.00%	17,836	105.14%
	サービス活動費用	17,628	94.00%	17,293	101.94%
	人件費	14,986	79.91%	14,690	102.01%
	事業費	1,471	7.84%	1,396	105.37%
	事務費	756	4.03%	740	102.16%
	サービス活動増減差額	1,125	6.00%	542	207.56%
	経常増減差額	1,299	6.93%	704	184.52%
	当期活動増減差額	924	4.93%	298	310.07%
洛西保育園	サービス活動収益	22,570	100.00%	20,965	107.66%
	サービス活動費用	19,441	86.14%	19,053	102.04%
	人件費	16,206	71.80%	15,774	102.74%
	事業費	1,762	7.81%	1,812	97.24%
	事務費	783	3.47%	698	112.18%
	サービス活動増減差額	3,129	13.86%	1,911	163.74%
	経常増減差額	38,027	16.51%	2,739	139.7%
	当期活動増減差額	3,162	14.01%	1,594	198.37%
あらぐさ保育園	サービス活動収益	12,181	100.00%	11,605	104.96%

	サービス活動費用	10,387	85.27%	10,233	101.50%
	人件費	9,002	73.90%	8,693	103.55%
	事業費	833	6.84%	801	104.00%
	事務費	412	3.38%	502	82.07%
	サービス活動増減差額	1,793	14.72%	1,371	130.78%
	経常増減差額	1,905	15.64%	1,481	128.63%
	当期活動増減差額	1,613	13.24%	1,271	126.91%
青い空保育園	サービス活動収益	11,344	100.00%	10,636	106.66%
	サービス活動費用	10,140	89.39%	10,177	99.64%
	人件費	8,321	73.35%	8,528	97.57%
	事業費	989	8.72%	930	106.34%
	事務費	576	5.08%	572	100.70%
	サービス活動増減差額	1,024	9.03%	459	223.09%
	経常増減差額	1,281	11.29%	534	239.89%
	当期活動増減差額	1,047	9.23%	206	508.25%
合計	サービス活動収益	64,850	100.00%	61,043	106.24%
	サービス活動費用	57,597	88.82%	56,759	101.48%
	人件費	48,515	74.81%	47,686	101.74%
	事業費	5,055	7.79%	4,940	102.33%
	事務費	2,527	3.90%	2,513	100.56%
	サービス活動増減差額	7,252	11.18%	4,284	169.28%
	経常増減差額	8,313	12.82%	5,459	152.28%
	当期活動増減差額	6,748	10.41%	3,370	200.24%

決算の特徴では、サービス活動収益は、白い鳩保育園前年比 105.1%、洛西保育園 107.6%、あらぐさ保育園 104.9%、青い空保育園 106.6%となり、全体で前年比+3,807 万円の増収となりました。全体的には保育委託費単価の増、処遇改善加算Ⅱによるものです。あらぐさ保育園はチーム加算（平均勤続年数が 15 年以上）が約 600 万円を前年に引き続き取ることが出来ました。

当期活動収支差額は、白い鳩保育園（924 万円の黒字）、洛西保育園（3,162 万円の黒字）、あらぐさ保育園（1,613 万円の黒字）、青い空保育園（1,047 万円の黒字）、合計で 6,748 万円の黒字（予算比 726.8%）となりました。

（3）児童支援

利用者の特徴は、幼稚園児より保育園児の並行通園が多く、働く保護者が増えたこともあり、土曜日の療育を希望し、週 1 回の療育が増えてきました。児童相談所からは、年中・年長の待機児童が多いので受け入れてほしい等の要求がありましたが受け入れができませんでした。

児童発達支援事業では、事業所が増え、療育の枠はあるということ待機児童はいないということになっているが、発達検査が間に合わない状況から待機がないという状況にあります。運良く民間を利用し繋がり養育受けられることの不公平感が顕著になってきています。放課後等デイサービスでは、昨年在籍者が 120 名以上増え、学生バイトが多いところや職員の入れ替わりの激しいところもあり子どもたちに影響が出ているところもあり質の向上が求められているところです。子育て支援では、児童館の取り組みに年 10 回は参加し 0・1 歳児の発達支援の観点から取り

組んできました。また、保健センターのこあらっこでは母子分離でグループワークを進めてきました。保護者からはゆっくり話すことができたと継続した参加が見られました。

児童相談支援では、一旦デイサービスに入所すると、高校まで通うことができるので相談も継続傾向があり、市内に61か所あるがセルフプランが多く京都方式は名目だけとなってきています。

利用状況は、パーチェ年間3,029名（1日当たり10.4名、前年度比率96.2%）、第二パーチェ年間2,851名（1日当たり9.8名、前年度比率104.7%）、パーチェ梅小路年間2,823名（1日当たり9.7名、前年度比率105.7%）、相談支援パーチェ計画相談318件（月平均26.5件、前年度月平均21.25件）モニタリング226件（月平均18.8件、前年度月平均15.4件）となっています。

単位：万円

	科目	2017年度	構成比	2016年度	前年比
パーチェ	サービス活動収益	3,720	100.00%	3,783	98.33%
	サービス活動費用	3,335	89.65%	3,295	101.21%
	人件費	2,585	69.49%	2,555	101.17%
	事業費	93	2.50%	66	139.10%
	事務費	633	17.02%	644	97.30%
	サービス活動増減差額	385	10.35%	487	79.06%
	経常増減差額	385	10.38%	498	77.51%
	当期活動増減差額	205	5.50%	256	80.08%
第二パーチェ	サービス活動収益	3,482	100.00%	3,296	105.64%
	サービス活動費用	2,604	74.78%	2,462	105.77%
	人件費	1,807	51.90%	1,721	105.00%
	事業費	73	2.10%	69	105.80%
	事務費	674	19.36%	624	108.01%
	サービス活動増減差額	877	25.19%	834	105.16%
	経常増減差額	885	25.42%	900	98.33%
	当期活動増減差額	645	18.52%	658	98.02%
パーチェ梅小路	サービス活動収益	3,447	100.00%	3,195	107.89%
	サービス活動費用	2,430	70.50%	2,457	98.90%
	人件費	1,934	56.11%	1,973	98.02%
	事業費	82	2.38%	65	126.15%
	事務費	378	10.97%	385	98.18%
	サービス活動増減差額	1,016	29.47%	738	137.67%
	経常増減差額	1,033	29.97%	741	139.41%
	当期活動増減差額	793	23.01%	501	158.28%
児童相談支援パーチェ	サービス活動収益	872	100.00%	636	137.11%
	サービス活動費用	713	81.77%	532	134.02%
	人件費	600	68.81%	420	142.86%
	事業費	1	0.11%	1	100.00%

	事務費	102	11.70%	101	1.00990099
	サービス活動増減差額	159	18.23%	103	154.37%
	経常増減差額	159	18.23%	103	154.37%
	当期活動増減差額	159	18.23%	105	151.43%
合算	サービス活動収益	11,522	100.00%	10,911	105.60%
	サービス活動費用	9,083	78.83%	8,747	103.84%
	人件費	6,926	60.11%	6,670	103.84%
	事業費	250	2.17%	201	124.38%
	事務費	1,789	15.53%	1,759	101.71%
	サービス活動増減差額	2,439	21.17%	2,164	112.71%
	経常増減差額	2,463	21.38%	2,243	109.81%
	当期活動増減差額	1,803	15.70%	1,521	118.54%

決算の特徴は、サービス活動収益で、パーチェは前年比 98.3%、第二パーチェは前年比 105.6%、パーチェ梅小路 107.8%、相談支援パーチェは前年比 211.9%、合計で前年比 105.6%（611 万円の増収）となりました。

当期活動増減差額は、パーチェ 205 万円、第二パーチェ 645 万円の黒字、パーチェ梅小路 793 万円、相談支援事業パーチェ 159 万円、合計で 1,803 万円の黒字（予算比 231.4%）となりました。

3. 法人運営

①理事会の出席率は 96.8%（前年度 98.8%）、評議員会は、100%（前年度 85.2%）と改善しました。

②毎月定期的に法人事務局会議（理事長・常務理事・介護事業部長・保育事業部長・児童支援事業部長で構成）を開催し、各分野の推移と課題の対応、稟議決裁、労働組合の対応、管理運営の向上を図りました。

16年度「きょうと福祉人材育成認証」17年度「京都モデルワークライフバランス認証」をとることができました。この制度を利用して人材確保と育成のために活用してきました。

③各分野で介護事業部会議、保育部会議、児童支援事業管理者会議などを開催し、事業分野ごとの運営の向上を図りました。

介護事業部は、西の京の組織と人事配置問題、報酬改定を受けての各事業所報告と課題対応、安全管理・苦情報告と対応、人事、各事業所の総括会議、各種委員会の取り組み、労働組合対応等を進めました。

保育事業部は、各園の事業報告と課題の対応、安全管理・苦情報告と対応、合同採用面接、新制度への対応、役員会議、各委員会報告、処遇改善の在り方、労働組合対応等を行いました。

児童支援事業は、各事業所報告と課題の対応、安全管理・苦情報告と対応を行いました。

④今期行われた行政監査（指摘事項）は以下の通りです。

洛西保育園 本部経費について前期末支払資金残高を計上収入予算額の3%を超えて取り崩す場合は理事会承認を得ること

4. 積立金と利益処分等の提案

（1）保育園の積立金の提案

決算において、白い鳩・洛西・あらぐさ保育園は、「修繕費積立金」を以下のように行います。

単位：円

事業所	修繕積立	その他積立	合計	①	②
白い鳩保育園	6,000,000		6,000,000	4.9%	28.75%

洛西保育園	34,000,000		34,000,000	16.26%	28.98%
あらぐさ保育園	10,000,000		10,000,000	13.66%	20.88%
青い空保育園				10.98%	15.50%
積み立て合計	50,000,000		50,000,000		

①当期資金収支差額＋各種積立金／事業活動収入（決算額） 5%以内 超えた場合は収支分析計算書の作成

②当期末支払資金残高／運営費収入 30%以下

(2) 利益処分の提案

	法人合算
今期繰越利益(欠損)	87,930,372
今年度積立金取崩	0
今年度積立金	50,000,000
次期繰り越利益	37,930,372

以上